

Economic Indicators

発表日: 2023年12月20日(水)

貿易統計(2023年11月)

～自動車輸出の増加ペース鈍化で輸出は伸び悩み～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
		輸出金額		輸入金額		前年比	アメリカ		EU	中国	前年比	アメリカ		EU	中国
		原数値	季調値	前年比	前年比		前年比	前年比				前年比	前年比		
22年	11月	▲ 20,576	▲ 17,700	20.0	30.6	▲ 0.8	2.3	8.6	▲ 9.9	▲ 6.5	▲ 14.7	2.5	▲ 6.9		
	12月	▲ 14,979	▲ 18,881	11.5	21.2	▲ 5.0	▲ 3.1	6.3	▲ 20.3	▲ 6.3	▲ 8.3	8.9	▲ 11.3		
23年	1月	▲ 35,064	▲ 17,683	3.5	17.2	▲ 8.3	▲ 1.5	▲ 6.5	▲ 26.2	▲ 2.6	▲ 1.0	▲ 8.3	▲ 1.2		
	2月	▲ 9,199	▲ 11,947	6.5	8.2	▲ 6.3	2.3	0.6	▲ 22.5	▲ 8.6	▲ 8.6	▲ 5.1	▲ 11.6		
	3月	▲ 7,588	▲ 12,138	4.3	7.1	▲ 7.5	▲ 5.7	▲ 14.6	▲ 19.7	▲ 3.5	0.8	▲ 5.7	1.8		
	4月	▲ 4,364	▲ 10,054	2.6	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 0.4	1.4	▲ 9.4	▲ 1.6	▲ 5.2	▲ 3.9	10.1		
	5月	▲ 13,821	▲ 7,873	0.6	▲ 10.2	▲ 3.6	2.1	4.5	▲ 8.8	▲ 6.6	▲ 6.8	▲ 6.2	▲ 10.5		
	6月	392	▲ 5,807	1.5	▲ 13.1	▲ 4.0	3.9	1.3	▲ 14.1	▲ 7.6	▲ 14.0	5.0	▲ 13.9		
	7月	▲ 637	▲ 5,881	▲ 0.3	▲ 14.1	▲ 2.8	9.4	1.0	▲ 15.8	▲ 6.2	▲ 12.2	15.6	▲ 16.1		
	8月	▲ 9,432	▲ 5,630	▲ 0.8	▲ 17.6	▲ 5.3	3.8	1.1	▲ 15.1	▲ 9.0	▲ 9.6	5.1	▲ 13.8		
	9月	654	▲ 4,114	4.3	▲ 16.5	0.2	8.6	▲ 0.6	▲ 12.5	▲ 3.9	▲ 12.9	▲ 6.2	▲ 1.7		
	10月	▲ 6,610	▲ 5,013	1.6	▲ 12.5	▲ 3.4	8.8	0.4	▲ 9.4	▲ 3.2	▲ 0.0	0.8	▲ 2.6		
	11月	▲ 7,769	▲ 4,089	▲ 0.2	▲ 11.9	▲ 5.6	3.4	▲ 11.8	▲ 9.9	▲ 3.5	2.5	0.3	▲ 3.4		

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○輸出が3か月ぶりの前年比減少

財務省より発表された23年11月の貿易統計では、輸出金額が前年比▲0.2%、輸入金額が同▲11.9%、貿易収支は▲7,769億円の赤字(事前の市場予想:▲9,900億円、筆者予想▲6,110億円)となった。輸出が市場予想(前年比+1.5%)を下回り、3か月ぶりに前年比マイナスに割り込んだ。輸入物価の下落に伴い輸入金額の減少が続く一方、世界的な製造業部門の景況感低迷から輸出金額も伸び悩んでおり、高水準の貿易赤字が続いている。季節調整値でみると、輸出金額が前月比▲1.8%、輸入金額が同▲2.7%とどちらも減少し、貿易収支は▲4,089億円の赤字となった。なお、輸入物価については22年秋頃までの高い伸びの裏が一巡したことを受けて、今後は下落幅を縮小させる見込みである。これにより名目輸入も今後は減少ペースを緩める見込みであり、貿易収支の赤字基調は当面続くだろう。

11月は輸出が弱かった。物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は前月比▲5.1%(10月:同+1.0%)と大幅な減少となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。10-11月平均は7-9月期対比で▲0.8%下回っており、海外経済の減速を受けて実質輸出は軟調な動きが続いている。これまでの輸出は自動車生産の回復が牽引してきたが、足元では挽回生産の縮小によって自動車輸出の増加ペースに鈍化がみられている。世界的な財需要の減少から自動車以外の財輸出はすでに低迷しており、自動車輸出の伸び悩みはそのまま実質輸出の停滞に繋がる。先行きも欧米を中心とした経済減速が見込まれる中で、実質輸出はペースを抑制される可能性が高いだろう。

○地域別実質輸出の動向

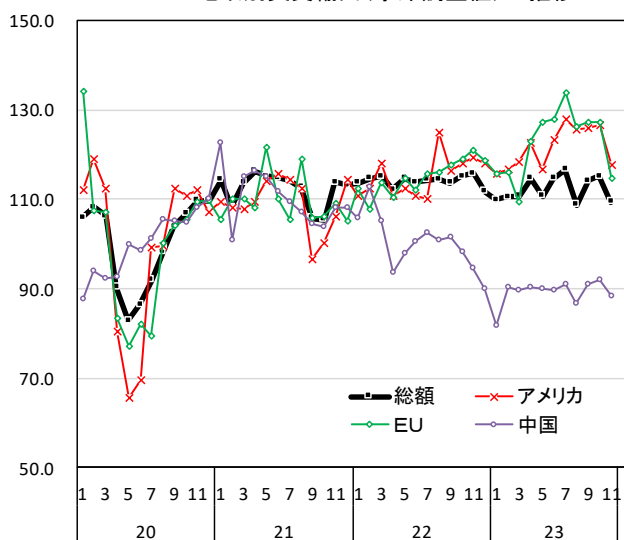
11月の実質輸出を地域別にみると、米国向けが前月比▲7.0%（10月：同+0.5%）、欧州向けが同▲9.9%（10月：同+0.1%）、中国向けが同▲4.0%（10月：同+1.2%）となり、いずれの地域も減少に転じた。

米国向け輸出は、11月は自動車を含む輸送機器が前月比▲10.1%と大きく落ち込んだ。10-11月平均は7-9月期対比で▲3.4%pt下回る。これまでウェイトの大きい自動車輸出の回復が支えとなって、4-6月期は前期比+3.3%、7-9月期は同+4.7%と均せば増加傾向で推移してきた米国向け輸出だが、足元では自動車輸出の増加ペースに鈍化がみられており、10-12月期は減少に転じる見込みだ。先行きも、自動車輸出の一服に加えて、長期に渡る金融引き締めの影響で米国経済の減速が見込まれる中、米国向け輸出も停滞感を強めるだろう。

欧州向け輸出も、11月は輸送機器が前月比▲19.4%と大きく減少したが、10月に+29.1%と大きく増加していた反動の面が大きい。その一方で、欧州向けは自動車以外の財の落ち込みも大きく（一般機械：前月比▲19.2%、電気機器：同▲3.8%等）、10-11月平均は7-9月期対比で▲6.3%pt下回る状況だ。基調としては弱く、欧州経済の悪化を踏まえると先行きも欧州向け輸出は減少が見込まれる。

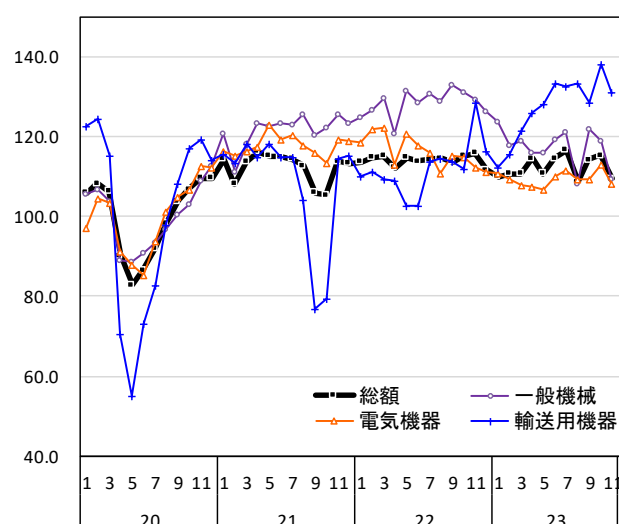
中国向け輸出は、9月に前月比+4.9%、10月に同+1.2%と増加が続いたが、11月はふたたび同▲4.0%と減少に転じた。足元では下げ止まりつつあるが、中国景気の低迷によって23年は底を這う動きが続いている。先行きも中国経済が回復の軌道に乗るには時間がかかるとみられ、中国向け輸出は軟調な動きが続くだろう。これに加えて、8月以降は半導体製造装置の輸出規制強化や中国の日本産水産物の輸入規制など、日中間の政治的要因による下押しもあり、こうした影響は長期に渡る可能性がある点も懸念材料だ。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(出所)財務省 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。